

【Charana Arroy】

説明

すべてを癒すその御手、光持ち帰りし者たちの白き貴婦人、
御身の助けに抗える傷なし、
苦痛が族長を狂わすときには御身が助くる。
世界を癒し、生命を再びもたらし給わん。



解説

■神殿

嵐の神殿。神。

■称号、職能

癒しの女神。光持ち帰りし者たちの支柱。

■概略

原初の創造の力を持つ古い癒しの女神。すべての暴力を否定し、助けを必要としている者は誰であろうと癒した。事を成そうとする側に着くことは無く、いかなる勢力にも組しなかった。

大暗黒の最中、死が癒せないものであることを知ると、チャラーナ・アローイは初めて自ら行動することを決めた。彼女は肉体を持つ男の後を追ひ、光持ち帰りし者たちの探索に加わって世界に生命を取り戻した。それからチャラーナ・アローイの癒しの力は死すら癒すようになった。探索から戻ったチャラーナ・アローイは、かつてそうであったように自ら事を成すことを止め、再び癒しの女神としてのみ働くようになった。

ヒョルト人はチャラーナ・アローイを白い装束をまとった背の高い女性として描く。

■異界

チャラーナ・アローイは嵐の領域にある嵐の村の癒しの館に住んでいる。

組織

■聖日

病院や社では毎週の荒の日に小さな儀式が行われる。

精神を癒す日（海の季、豊穡の週、荒の日）

癒し手は精神の病を追い払う儀式を行う。

魂を癒す日（火の季、豊穡の週、荒の日）

信者は魂の病と戦う儀式を行う。エルマルの光が讃えられる。

身体を癒す日（地の季、豊穡の週、荒の日）

手足を失ったり、大きな傷跡を持つ人々が癒される。癒し手アーナールダの信者も参加し、大地とチャラーナ・アローイの絆が確認される。

豊穡を癒す日（闇の季、豊穡の週、荒の日）

信者たちは儀式を行い、生殖能力を失った人々を癒す。すべての母アーナールダとすべての父オーランスが信仰を受ける。

毒を癒す日（嵐の季、豊穡の週、荒の日）

毒を持つあらゆるものからの防護の儀式を行う。チャラーナ・アローイが追い払ったセヴサルサルに止めを刺したのがヘドコーランスだったため、ヘドコーランスの信者も儀式に参加する。

■大聖日

秘密の癒しの日（復活の日）（聖祝季、運命の週、凍の日）

チャラーナ・アローイによってオーランスが復活したことを再現する儀式が行われる。聖祝季に2週間に渡って行われる光持ち帰りし者たちの探索の儀式の一部。

■下位カルト

- ・アローイン
- ・混沌の敵ナティルサ
- ・慈愛の姉妹たち
- ・“野の癒し手”フェラス
- ・プランジャーラー

■信徒の呼び名

使徒

【High Healer】

■好まれる神友

治療道具、鳩、蝶

業績

- ・（その神のなした業績を一行で書き表そう。その業績は単独で記事にしよう）

近親

■両親

父親は不明。

母親はグローランサ。

■子

アローインをなす（オーランス、イエルム、ハイキムなどの子というように、伝承によって父親が誰かは異なっている）。

慈愛の姉妹たちはチャラーナ・アローイの養女とされる。

神知者分類法

「豊穡」「調和」

参考文献

- ・『ゆりかご河』 p.149-151
- ・『Storm Tribe』 p.31-44